

1. 最近の外資の進出状況など

- 3/08、タイのプリント回路基板などを生産するハナ・マイクロエレクトロニクスは、カンボジアとタイ北部に新工場を、計15億バーツの投資で建設することを発表。カンボジアではタイ国境に近いココンで土地を取得し、床面積2.3万㎡の工場を2014年半ばに完成する予定。
- 3/10、タイの自動車関連製品の小売りチェーン「ピークイック」は、2013年中にカンボジアのプノンペンに海外初店舗を出店する。今年第3四半期に建設工事を始め、来年初めの開業を目指す。投資額は約2000万バーツ。その後、ミャンマー、ラオスに店舗を広げるとしている。
- 3/15、ベトナム投資開発銀行(BIDV)系の保険会社BIDV保険(BIC)は、このほどラオスとカンボジアの事業をそれぞれ拡大すると発表。カンボジアでは、カンボジア投資開発会社が持つカンボジア・ベトナム保険(CVI)株65%を全て取得する予定。取得費用は455万ドルになる見込み。

2. ポル・ポト裁判関係

- 3/14、旧ポル・ポト派のイエン・サリ元副首相兼外相(ポト派ナンバー3)が14日、プノンペンの病院で死去(87歳)。ポト派による大量虐殺に関し、人道に対する罪などに問われ、特別法廷で公判中だったが死去に伴い近く終結する。ポト派をめぐっては、最高指導者だったポル・ポト元首相はすでに死去。ナンバー2のヌオン・チア元人民代表議会議長、キュー・サムファン元国家幹部会議長らの裁判が続いているが、関係者の高齢化が進んでいる。元副首相の死去により、自国民を大量虐殺した暗黒時代の真相解明はさらに遠のく恐れがある。
- ポル・ポト裁判、虐殺究明、「時間との戦い」
2007年にヌオン・チア元人民代表議会議長(86)ら4人が逮捕されたが、この時すでに全員が70歳以上であり、最高指導者のポル・ポト元首相は死亡していた。2011年によく初公判にこぎ着けたが、4人はいずれも無罪を主張。その後、イエン・チリト元社会問題相(81)は重度の認知症のため、裁判継続は困難だと判断され、釈放された。一方、ヌオン・チア元議長やイエン・サリ元副首相は、たびたび体調不良を訴えて裁判を欠席。被告自身が同意しない限り欠席のままでは裁判は進められず、裁判の停滞を招いた。さらに昨年12月以降、特別法廷は資金不足で現地職員の給与が未払いとなり、カンボジア人職員の一部がストライキを宣言し、法廷が開けない状態が続いている。結局、ポト派をめぐって判決が出されたのは、昨年2月のトゥールスレン政治犯収容所のカン・ケ・イウ元所長(70)＝終身刑確定＝だけだ。

3. 先発ASEANとの経済格差縮小が課題＝CLMV4か国が会合

3/07、ベトナムの首都ハノイ市で、カンボジア(C)、ラオス(L)、ミャンマー(M)、ベトナム(V)の4か国政府の経済担当の高官による会合が開かれ、この4か国と他の東南アジア諸国連合(ASEAN)諸国との経済格差を解消するための取り組みなどについて話し合われた。この会合の議長を務めたミャンマー政府のアウン・ナイ・オー氏は「CLMVの発展は他のASEAN諸国より遅れており、この経済格差は2015年のASEAN経済統合の障壁となっている」と指摘した。このため会合では、CLMV4か国が先発 ASEAN との格差を縮小するために実施してきた各種プロジェクトの成果を評価することに力点が置かれたという。

4. タイ、プリアビビア問題のため、恩赦や和解の議論中止

タイとカンボジア政府は、プリアビビア問題で来月、国際司法裁判所(ICJ)で最終的な意見陳述を行う。3/19、タイ国家安全保障会議(NSC)のパラドン事務局長は、「この陳述の前に国内で抗議デモが行われる可能性がある」と述べ、またプリアビビア問題に関し、すべての立場の人々を満足させる結論は出ていないとし、この問題をめぐり社会対立が起きる恐れがあるため、同じタイミングで恩赦や和解の議論を行うことに懸念を示した。

5. 縫製関連情報

①米大学の調査、BFCの限界を指摘

アメリカの主要大学による報告書には、「国際労働者機関のBetter Factories Cambodia(BFC)は、もはや縫製工場の環境改善への先導力にはならない。BFCの現在の施行状況は、透明性に欠け、工場経営者とバイヤーの保護に偏り、労働者保護は二の次となっている」と記載されている。

またスタンフォード大学のロースクールのInternational Human Rights and Conflict Resolution Clinicとthe Workers

Rights Consortiumのレポートでは、「BFCの手法は透明性が欠如しており、労働者からの苦情を処理する為の正式な手順を持ち合わせていない。またBFCは公的なレポートに明確な指標を示してもおらず、労働者の給与と物価上昇に伴う生活費の釣り合いな状況の発生についても言及していない。さらに、この10年で過度の残業が広がりつつある。多くの労働力は契約期間がもうけられた契約へと変わりつつあり、団体交渉は限られた状況にある。そしてBFCは個々の工場に対して公的な報告を出し、労働者の不安に対して反応を示す必要がある」と指摘している。また労働者の奉仕活動の実施、工場の暴力問題隠蔽の低減なども上げられた。

スタンフォード大学のロースクール International Human Rights and Conflict Resolution ClinicのStephan Sonnenberg氏は、有名ブランドが圧力をかける責任があると述べ、「バイヤーが工場の経営陣に対して、労働環境の向上を主張し、またBFCと共に改善していくことを提案すべきだ。しかし、それをすると彼らはカンボジアを去るぞと脅す可能性もあり、一筋縄ではいかない事は考えられる」と述べ、「Levi's、Gap、H&M、WalMart、Puma、Nikeはカンボジア製が際立つ。BFCの従業員は彼らの仕事をしっかりと行っている」とSonnenberg氏は話したが、「しかし組織的な構造が彼らの妨げになっているが、BFCは潜在的な将来性は持っており、カンボジアの明るい変革へのきっかけとなると思う」とまとめた。

②組合員が、工場側が雇った暴漢に殴打される

2/21、カンボジアアパレル民主組合連盟(C.CAWDU)に所属するメンバー7人が、Kandal州Sa'ang地区にあるE縫製工場周辺において、会社側の雇った暴漢に襲われた。デモ活動がこういった暴力行為を含む事件に発展したのは、これで今月2回目である。

組合側はこの事件に関して警察に訴えており、被害にあった組合メンバー達は病院に送られ週末には全員退院した。警察は現在、事件の容疑者を調査している。C.CAWDUの副代表Kong Athit氏は、「7人の組合メンバーが襲われたこの事件には、およそ20人が関与している。襲われた7人は抗議活動を終え帰宅するところを狙われた。会社側が暴漢に襲撃を命じた」と訴えている。

H&Mなどの衣料も製造しているE縫製工場では、今月早くから労働者達が抗議活動を行っており、2007年に解雇された41人の復職を要求していた。工場側は41人のうち何人かを復職させたが、そのうち8人を、再度解雇した。

③国内工場間(例:Yung Wah 社と Kingsland 社)の格差問題

12月下旬に会社が閉鎖したことにより仕事を失った労働者達の行く末は、勤務していた2つの工場によって、明暗が分かれた。一方は全てを手にし、もう一方は何も得ることはなかったのだ。

Yung Wah 社と Kingsland 社で働く労働者達の広がりつつある格差は、縫製業に携わる労働者達に確立された保険制度を求める声を高める原因となっている。例えば Yung Wah Industrial 社と Kingsland Garment 社を比べると、「一方は労働者の賃金や手当を全額支払うことに意欲的であるが、もう片方はまったくそうではない」、といった現実がある。

そして Kandal 州の政治家 Phai Bun Chhoeun 氏は、「GAP の衣料を製造している Yung Wah 社で働くおよそ 7000 人の労働者のうち多くは、会社が 650 万ドルという前例のないほどの金額の貸付を経財省から受け、従業員は然るべき金額をきちんともらっている」と話した。しかし一方、Kingsland 社に勤めていたおよそ 700 人の労働者は、ただの 1ドルももらってはいない。

国際労働連帯アメリカセンターの Dave Welsh 氏は、「Yung Wah 社の労働者が支払いを受けることができよかったです。しかし問題は、政府がいかんして Yung Wah 社と Kingsland 社のような違いを区別できるかどうかです」と話す。Walmart や H&M のアンダーウェアを製造していた Kingsland 社が閉鎖したことにより、そこで働いていた Or Sokuong さんは、友人からお金を借りてなんとか暮らしているような状態となった。「他の労働者達は、借りていた家を追い出されました。友人や親戚を頼りに暮らさなくてはなりません。政府の助けが必要です」と彼は話す。Kingsland に勤めていた 100 人以上の労働者たちは、国道 2 号線を閉鎖させ、政府の介入を求めた。労働者は、毎年年功加棒として 46ドルの手当をもらっていた。しかし Sokuong さんは、「この額は本当にもらうべき金額よりずっと低いものです。この事実を受け入れることができません。私はおよそ 3000ドルをもらうべきです」と話している。

カンボジアアパレル民主組合連盟(C.CAWDU)の副代表 Kong Athit 氏は、「対策を立てなければならぬのは政府です。工場の経営陣が勝手に建物を閉鎖し逃げることをないように、監視を続けなくてはなりません」と語った。カンボジア縫製業協会の Ken Loo 氏は、「これから起こる工場閉鎖の可能性に対しては、政府が数年後に実地する予定の社会保障事業で、対応が可能となる」と話し、「それでも社会保障機関は、一夜潰けで生まれるようなものではない。残念ながらカンボジア縫製業協会は、民間保障基金を設立するだけのキャパシティをもっていないので、当分の間、政府に頼らざるを得ないだろう」と付け加えた。

④2/21、縫製工場内にクマが発見される

Kandal州のYung Wah縫製工場にて、良く太った2匹のマレーグマが救出された。野生動物協会のチームが工場へ立ち入り、その後、それらのクマはプノン・タマウにある保護センターへ送られた。Yung Wah工場で働いていたSoy Sokchea氏によると、マレーグマは10年に渡って飼育されていたと言う。「労働者が飼育ケージをつくり、全ての従業員がクマを見る事が許されてはいなかった。見物したければ、世話係と仲良くなり経営陣が不在時に見に行くしかありませんでした」とも語った。The charity Free the BearsのChuon Vuth マネージャーは、2匹のクマは少なくとも3才以上であり、雄は144キロで、平均の2倍の体重があり、健康面で極めて深刻な状況だと言う。そして彼らはもう自力で餌を探し、生活していく能力を失っていると述べた。



Takhmao市の軍警察Hieng Chanthy氏は、「Yung Wah縫製工場と付き合いのある人が、これらのマレーグマは密輸入されたのではなく、ギフトとして寄贈されたのだ、と述べていた」と言う。GMACのKen Loo氏は「それは全てオーナーがした事であり、我々には関係ありません」とのみ述べた。Yung Wah縫製工場のシンガポール、カンボジア両サイドに連絡を試みたが、不通の状態が続いている。

⑤最低賃金に関する協議は行き詰まりか

2/26に行われた労働組合と工場(GMAC)、そして政府間での話し合いは一向にまとまらず膠着状態で終わった。3者(労働組合、工場、政府)は、膠着状態にあるこの話し合いを2/27午後まで引き伸ばすことに同意しており、労働組合側は、「最低賃金アップの要求は、現在のおよそ2倍である」との立場を貫こうとしている。

カンボジア労働組合連盟(CCU)の代表Rong Chhun氏は、「われわれは、カンボジア縫製業協会(GMAC)によって提示された額を拒否しており、最低賃金を61ドルから120ドルへ増加させる要求を、引き続き行っていく予定である」と話す。「GMACは、月に72ドルほど支払う、と言いました。しかしそれはあまりに少なすぎるので話し合いにはなりません。私たちはそれに賛同することはできません。GMACは、100%の賃上げがなぜ問題外なのか正確な理由を組合側に伝えることができなかった。120ドルへの賃上げができれば、カンボジアの労働者の生活がタイやベトナムの労働者とおなじような水準に並ぶことができる。72ドルは、私達の理想とはほど遠いものです」と付け加えた。

GMACのKen Loo氏は、「彼の組織が提案していた額は実際、労働組合側が要求している額とは違った。われわれは現在61ドルの最低賃金を67ドルにまで引き上げ、5ドルの健康手当を足して最大72ドルにする。労働組合側がどう考えるかによりますが、もし彼らが120ドルという額にしがみつくとすれば、交渉の余地はありません」と話す。

⑥2/28、Walmart・H&Mへ供給していた Kingsland 社にて座り込み抗議

閉鎖したKingsland社の工場に勤めていた労働者達は、「フンセン首相やWalmartやH&Mなど、工場のバイヤーであった海外企業が、問題解決を手助けしてくれるまでストライキを継続させる予定である」と、話をした。職を失った700人のうちのひとりOr Sokuongさんは、「労働者達はプノンペンのMeanchey地区のKingsland工場周辺で寝泊りをし、断食を始めた」と話し、「彼らが私達に情けをかけてくれるかどうか知りたいのです。食べ物を買って家族を養い、両親を助けるためのお金もうありません」と話す。



WalmartとH&Mは、どちらも労働者に関する責任を放棄しており、工場を閉鎖する前に全て取引は完了していたことを、その理由にしている。しかし政府職員や労働者代表、そしてコミュニティ法教育センターやカンボジア工場改善委員会などと面会するために、各社とも代表者をカンボジアに派遣する予定である。

11年間 Kingsland に勤めていた 51 歳の Soun Sokhum さんは、「彼女の同僚も彼女自身も、なんの支払いも受けずに工場から追い出され、家賃を払うのにさえも苦勞している。1 か月前に、姉と暮らし始めました。退職をしたときのためにお金を稼いでいましたが、工場は閉鎖されなんの手当も受け取れませんでした」と話している。

WalmartとH&Mに届いた公式文書の中で労働者達は、「会社の代表をカンボジアに迎えることをとても歓迎している。社会問題相は、工場にある設備を全て売り払う予定だと、私たちに話しています」と書いている。しかし、それらを売り払っても彼らが受け取る保障金は、法的に決められている額よりもずっとずっと少ないものになる。

6. 性犯罪が上昇

2/20、発表されたレポートによると、女性に対する性目的の人身売買や強姦、または強姦未遂といった犯罪が、カンボジア国内では2011年から2012年にかけて増加傾向にあった。National Council for Womenにより作成されたこのレポートは、Peace Palace にいた何百人もの政府職員や国会議員に配布された。このレポートには、国中にある24の地方・州裁判所から集めたデータも載せられている。

Phnom Penh 裁判所の Chive Keng 氏は、性目的の人身売買や強姦といった犯罪は、2011年には1058件であったのに比べて2012年には1119件へと増加している、と話した。しかし野党の Mu Sochua 氏は、実際の件数はこの数値よりも高いものだ、としている。そして Mu 氏は「私が訪れる町では、いつも強姦の話を目にします。レポートによる件数が全てでは無いと確証しています」と話す。「裁判所に訴えたの、と私が聞くと、”いいえ、犯人はまだ自由なのだから訴えた後の報復が怖いです”と、彼女たちは言うのです」と述べた。

7. Kratie 州でハゲワシの希少種発見

Kratie 州 Sambo 地区の森林奥地にて、紅頭のハゲワシが見つかった。そのハゲワシは世界自然保護基金(WWF)により、絶滅危惧種の一つに指定されている。そのハゲワシを見つけた Phlunh Toeur さん(20)は、「大木の上に、そのハゲワシを見つけた時とても驚きました。そして、WWF の担当者へ連絡をしました」と話す。

Toeur さんは2012年よりハゲワシのガーディアン及び希少種の保護を目的にWWFに雇われており、その発見後、WWF のメンバーと記者は、その場所へ行き、そしてそこで生後15日前後と思われる2匹の雛に、母鳥が餌を与える姿を確認した。



「私はこの活動をする事で、1日4ドルの給与を得ることができ、そして絶滅保護の活動の一役も担っており、とても感謝しています」と Toeur さんは述べた。この2年間で2つの巣と4匹の雛しか発見されておらず、今回が2例目となった。昨年5月には、ワシ用に3匹の牛を殺し、放置した際に2匹の写真を撮る事に成功していた。

以上